

測定・分析の注意点

(受付時間) 午前8時30分から午後5時15分

(休館日) 土曜日、日曜日並びに祝日および12月29日から1月3日まで

(問い合わせ先) 一般財団法人岡山セラミックス技術振興財団 TEL 0869-64-0505 FAX 0869-63-0227

＜測定・分析手続き＞

1. 測定・分析等依頼書(様式1)の住所、会社名等、試料名は、報告書の必須項目となりますので、正確に記載ください。試料数が多い場合は別紙を添付してください。
2. 原則として、受付完了後の1.事項の変更はお受けできませんので、依頼時に十分確認の上ご用命ください。
3. 不明点は、依頼書見本(様式A)をご参照いただくか、事務局へお問い合わせください。
4. 測定・分析等依頼書により事務局へ申込みください。測定・分析試料は、ご持参いただくか、宅配便などでの申込みも可能です。
5. 測定・分析は受付の順番で公平に処理します。

＜測定・分析報告書＞

1. 報告書は、測定・分析手数料の入金確認後に郵送でお届けします。また、入金手続きが完了され、ご希望の方には、郵送前にFAX(無料)、PDFメール送信(有料)での連絡も可能です。**※＜測定・分析手数料＞2.で後納の手続きを取られ、測定・分析依頼書の料金後納欄に○印された方には、測定・分析結果を即時ご連絡します。**
2. ご提供試料、試験後の試験体は、原則として返却しませんのでご了承ください。
3. 報告書に測定・分析条件の記載が必要な場合は、依頼書の特記事項欄に記載ください。
4. 測定データや写真データが必要な場合は、別途料金が必要となります。

＜測定・分析手数料＞

1. 測定・分析手数料については、料金表(含む消費税)をご参照ください。
2. 測定・分析手数料は、原則として申請の際にお支払いいただきますので、事前に料金を確認してからご利用ください。ただし、**財団賛助会員(原則)の方で事前に後納に関する申請手続きをされている場合は、手数料の後払いが可能です。**
3. 測定・分析時に立会いや技術指導を希望される場合は、別途料金にて対応いたします。
4. 測定・分析の実施に関して料金に含まれない消耗品については、別途料金が必要となる場合がありますので、担当者に確認してください。
5. 詳細および不明点については、測定・分析担当者または事務局にお問い合わせください。

＜その他＞

本料金表および申請書については、当財団のホームページにも掲載しておりますので、ご利用ください。(URL <https://occ.optic.or.jp>)

測定・分析に係る試験体の最適量の提供についてお願い

当財団では、測定・分析に関して持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、依頼の際の試験体の量を次のとおり定め、不要な試験体を無くし廃棄物の大幅な削減を図ることから、依頼の皆様には次のことをお願いします。

1. ご提供いただいた試料、試験後の試験体は、原則として返却しません。

2. 提供試料の重量、容量の目安

区分	主な測定・分析項目	提供量
分 析	蛍光X線分析、ICP 発光分光分析、原子吸光分析、カーボン分析など	100g 程度
物理試験	荷重軟化点試験、熱膨張試験、熱伝導率試験など	試験体が得られる量

※1. 手数料表に記載している試料の重量や寸法を十分ご確認の上ご提供ください。

※2. 試料加工時に破損や滅失の可能性がある場合は増量してご提供、或いは追加での提供をお願いする場合があります。

3. 固体試料(れんがなど)を上記 2. に示す量(2. ※2. の場合を除く)を大幅に上回ってご提供いただいた場合、廃棄に係る処分費(時価)をご負担いただくこととなりますのでご注意ください。

熱間特性測定の事故防止対策について(お願い)

これまで未特定試料の試験を実施した際に、融点を超えた温度で試験を行った結果、成分溶出が起これり炉体や発熱体を損傷する事故がありました。

事故防止策として財団担当者から下記事項についてお問い合わせ、追加試験(有料)についてお願いする場合がありますので、事情ご賢察の上、予めご了承ください。

【対策】

1. 溶融などが危惧される場合（試料詳細が不明の場合）

ステージ 1 (1)依頼者との情報交換を行い、試験温度での溶融が無いことを確認する。

(2)この際、溶融があった場合の復帰費用負担をお願いする事を伝える。

(3)費用負担額の目安は別表の「機器修繕想定額一覧(目安)」とする。

ステージ 2 (1)溶融について不確定な場合は、依頼者での試験温度までの加熱確認をお願いする。

(2)依頼者での対応が難しい場合は、各種焼成試験の項目を追加し、依頼者費用負担の了解を得る。

(3)加熱確認を OCC にて実施する。

※損傷試料の解析を当財団が行う(有料)ことは可能です。必要に応じご用命ください。

事故防止対策をお願いする試験項目

・荷重軟化試験	・熱伝導率(熱線法)	・熱伝導率(熱流法)	・熱膨張試験
・熱間圧縮試験	・クリープ試験	・熱応力測定	・熱伝導率(レーザーフラッシュ法)
・熱膨張試験(TMA)	・熱間曲げ試験	・荷重下膨張試験	・各種電気炉 その他記載以外の項目

機器修繕想定額一覧(目安)

事案	対応	期間	費用目安
1. 試料から成分が少し溶出し炉内を汚染した。	から焼⇒財団	数日	無償
2. 試料から成分が溶出し発熱体、熱電対が損傷した	部品交換	1 か月	1,000 千円程度
3. 炉体、発熱体、熱電対などすべて損傷	部品交換	3 か月	5,000 千円程度

4. 炉体以外、電気系統に異常をきたした場合	引き取り修理	6 か月	10,000 千円程度
5. 損傷試料の要因説明	財団技術者が対応	要相談	要相談

汎用装置の場合、メーカーにて部品在庫を保持している確率は極めて高いですが、オーダーメイド部品、海外製品、C や SiC など需要逼迫部材は、納期が確定できない場合があります。

※事故防止のため、秘密保持は厳重に行いますので、可能な限りの情報公開をよろしくお願いします。